



NPO FUKUOKAデザインリーグとは

FUKUOKAデザインリーグは福岡市のデザインセンター構想をベースに、1996年に任意団体として発足しました。その後福岡市経済産業局内に事務局をおき、「デザインによる経済振興」を主な目的としてさまざまな活動を行ってきましたが、「デザインを経済のためだけでなく、社会の成熟のために活用する」という大きな使命のもと、2008年に特定非営利活動法人として再スタートしました。世界はいま環境問題やエネルギー問題など、さまざまな課題を抱えています。デザインはいまこそその力を企業や経済のためだけでなく、社会のため、市民のために活用しなければなりません。FUKUOKAデザインリーグでは、一人のデザイナーでは対応できない社会の大きな課題に対して、あらゆるデザイン領域を統合したトータルな力で、「市民が豊かに暮らせる社会(デザイン都市)」の実現を目指します。



NPO FUKUOKA DESIGN LEAGUE 2011 PROJECT ACTIVITIES REPORT

PUBLIC PROJECT パブリックプロジェクト(自主事業)

- 01** ユニバーサルキャンプin九州P03
- 02** デザインカフェP04
- 03** コレクティブハウスワークショップP05
- 04** 福岡景観ガイドツアーP06

EDUCATION PROJECT 教育プロジェクト(自主事業)

- 05** デザインスクールキャラバンP07
- 06** デザインインターンシップP08

SUPPORT PROJECT サポートプロジェクト(受託事業)

- 07** 福岡市デザイン啓発・広報事業 業務委託P09
- 08** 「福岡のデザイン100」アーカイブホームページ制作 業務委託P10
- 09** 平成23年度福岡市都市景観賞運営その他 業務委託P10
- 10** 「ユニバーサル都市・福岡フェスティバル」の企画検討 業務委託P11
- 11** ユニバーサル都市・福岡シンボルマーク作成P11
- 12** 福津こどもの城デザインワークショップP11
- 13** 公益財団法人福岡市スポーツ協会シンボルマーク制作委託P12
- 14** 建設工事におけるイメージアップに関する調査 業務委託P12

EXCHANGE PROJECT 交流プロジェクト

- 15** 大望年会P13
- 16** 釜山・福岡交換デザインインターンシップP14
- 17** 釜山日韓交流／DCB調印式P15
- 18** 上海戯劇学院との相互覚書交換事業P15
- 19** トヨタ自動車九州株式会社 宮田工場 ウィング21PR館見学P15

01 キャンプだからその楽しさと、 たくさんの気づき

ユニバーサルキャンプ in 九州 2011

日時: H23年10月29日～30日

会場: 海の中道海浜公園デイキャンプ場

障がいのあるなし、老若男女にかかわらず、すべての人がキャンプという少し不便な環境の中で、違いや多様性を知り、お互いを理解して「みんなが一緒に生き活きと暮らせる社会」「多様性を受け入れる社会」を作っていく事を目的としています。

今回で4回目となるこのキャンプは1泊2日で行なわれ、ものづくりや食事の準備等をみんなで行いました。共同作業のなかでそれぞれができること、できないことに気づき、みんなで助け合うことの大切さを学びました。メインイベントであるダイバーシティコミュニケーションでは、参加者が4つの班に分かれ、視覚障がい、聴覚障がい、車イスなどの体験をし、普段は見逃しがちな「気づき」を得るきっかけとなりました。

担当者感想

今年も60名程の方に参加して頂き、大変有意義な時間を過ごせました。第4回目にして初めての雨模様でしたが、不便な中でのキャンプはより一層のコミュニケーションが必要となり、これまでにない団結力を感じることができました。さまざまな人達と語り、活動を共にすることで、多くの気づきと感動を得た2日間となりました。受け入れ態勢等、まだまだ課題は多くありますので、今後はそのような諸問題を解決し、より一層充実した“ユニバーサル”なキャンプになればと思っています。[梅本幸治]

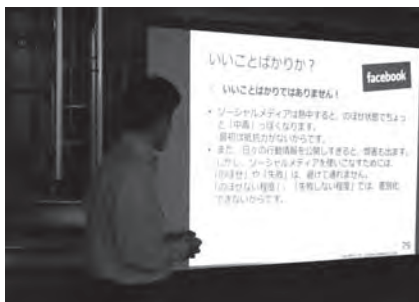


有意義な議論を コーヒーを味わいながら 02

デザインカフェ

日時: H23年6月29日、8月10日、9月21日、12月9日、H24年3月26日

会場:九州大学大橋サテライト



プロの淹れる旨いコーヒーを飲みながら、社会が抱える様々な問題や、景観、デザインなどについて議論を行う「デザイン・カフェ」。2011年度は以下の通り研究者や実践者をお招きし、5回(通算12回)のカフェを開くことができました。単なる発表の場ではなく、参加者も発言する場として、毎回積極的な議論が行われました。

[概要]

第8回 6月29日

藤田理恵子/佐藤俊郎

「パルセロナと釜山のデザイン戦略」

第9回 8月10日

「幸せの経済学」上映会

第10回 9月21日 森俊英

「デザイナーのためのFacebook活用術」

第11回 12月9日

古賀徹/佐藤俊郎

「「2011」を記す」

第12回 3月26日 佐藤博昭

「3.11記憶されるべきは何か」

担当者感想

2011年3月11日の東日本大震災後を経験し、今年のテーマは、環境、グローバル経済への疑問、哲学的思考、そして最後は映像作品と、震災以後の在り方について考える貴重な機会となりました。毎回、自家焙煎コーヒー店を営む小山さんとテーマに沿った豆を選定し、スタート前に薫り高いコーヒーを淹れて頂いています。[照井善明]

03 震災時における コレクティブハウスの可能性を見つめて

コレクティブハウスワークショップ

日時: 第1回7月5日、第2回8月2日、第3回9月3日

コレクティブハウス全国大会報告会10月19日

2011年の東日本大震災の復興の過程で、地域における「絆」、あるいはコミュニティの重要さが改めて見直されています。特に震災後の住宅復興で、従来型の住環境とは異なる、新たなライフスタイルに対応した住宅が模索されています。阪神淡路の震災時には仮設住宅で「コレクティブ」型の住宅が高く評価されましたが、このコレクティブハウスの可能性について3回にわたり勉強会、ワークショップを行いました。1回目は、コレクティブハウスの概略、時代背景、事

例等を紹介、2回目は実践者を交えてより現実的な実現可能性について議論し、3回目は懇親会の意味を含めて、各自料理を持ち込み、コモンミールの実践をしました。

担当者感想

毎回30名を超える参加者があり、関心の高さがうかがえます。2012年は、より具体的な事例を参加者と検討し、実現へ向けての一歩を踏み出す計画です。[佐藤俊郎]





04 景観賞25周年 再発見のガイドツアー

福岡景観ガイドツアー

日時・会場: 9月10・11日(大濠公園)、
10月15・16日(百道浜)、11月19・26日(住吉・春吉)
講師: 阿武壽志、照井善明、廣瀬正人、水野宏

2011年度は福岡市都市景観賞25周年を記念して、受賞作品を中心としたコースを企画しました。受賞作品が集中しているエリアとして百道浜、大濠を、例年通りの歴史的まちなみエリアとして住吉、春吉を案内しました。

担当者感想

歴史と現代が混在している大濠、まったく新しいルールでつくられ住民の努力により景観が守られている百道浜、歴史がいたるところに残りながら不思議な調和を見せている住吉・春吉という3つのコースを案内しました。どのエリアも、それぞれ個性的な魅力に満ち溢れたまちで、参加者にも喜んでいただきました。[水野宏]



05 みんなで知恵をしぼってトライ。 「災害に強いまち」って、どんなまち？

小学校出前授業「デザインスクールキャラバン2011」

日時:11月15日(火) 会場:福岡市立南当仁小学校

講師:DSA, JCD, JAGDA, JIA, SDA等デザイン関連団体会員約35名

小学校出前授業は、社会を学ぶ横断的、総合的な学習の一環として、デザインを通し、子どもたちのデザインマインド(創造的価値)の育成を目標とした事業です。特に、一学年全員で行う「まちづくり」による、チームワーク、コミュニケーション、プレゼンテーションなどの能力開発を目指しています。

2011年東日本大震災を、遠く離れた九州で、子どもたちが自分のこととして考えるきっかけとするため、「災害

に強いまちをつくろう」というテーマで、建築、環境、施設、店舗の4チームに分かれ、まちづくりを行いました。災害を想定した施設の計画をはじめ、子どもたちが学ぶ小学校を避難場所とし、各建物からの避難経路と隣り合う建物同士の連絡網など、まちに住む子ども、おとな、障害者、お年寄りなど幅広い人たちが安全に暮らせるまちを完成させることができました。

担当者感想

大震災が甚大な被害であったこと、そして震災から半年しか経っていなかったこともあり、「災害に強いまち」というテーマが、子どもたちにとっては深刻過ぎるのか、難しかったようです。しかし、あえてこのテーマに挑み、みんなで考え、つくることで、乗り切ったという実感があつたのではないかと思います。各々の担当した施設をつなぎ、まちが完成した時、それまでの少し不安そうな顔や疲労した子ども達の顔が、一瞬にして笑顔に変わりました。彼らにとって3時間半という短い時間で計画・デザイン・模型完成まで行うのは非常に過酷ですが、みんなで協力し合い、成し遂げる経験は、震災後の「絆」が話題になった今だからこそ得られた経験ではなかったかと思います。[中牟田麻弥]

06 現場がすべてを教えてくれる! 学生たちの夏の挑戦

デザインインターンシップ2011

日時: セミナー6月9日(木)、インターンシップ期間8月~9月

セミナー会場: 福岡市立中央区民センターホール

FDLでは2003年度より、デザイナーを志す大学・専門学校の学生を対象に、デザインの現場を体験するための「デザインインターンシップ」を行っています。インターンシップに先立ち、6月にセミナーを行い、手続きの説明、参加の心得などを伝えます。今年度はWEBを中心に活躍しているIT企業の経営者と、大手広告業界のク

リエーターの2名に、デザイン製作の現場について講演いただきました。また、インターンシップ経験者の先輩2名からも体験談を話してもらいました。特に先輩達のお話は、インターンシップに対する学生の不安を解消し、想像しにくかったデザイン業界への理解を深めるのに役立ったようでした。

担当者感想

社会を知り、憧れのデザイン業界の職場を体験する。インターンシップの意義は、学生にとって初めてとなるこれらの貴重な経験にあります。インターンシップは5日間という短い期間ですが、この経験を活かして将来の夢が叶えられるよう、大いに期待しています。[岡真由子]



実習後のレポートより

・毎日遅くまで残ってモノをつくるということは想像以上に大変でしたが、analogue社の現場の雰囲気や、作り出された広告を見たときのワクワクした気持ち、モノづくりに携わっている自分、全てひっくるめてスキだと感じました。(受入先: analogue/福岡教育大学3年生)

・実際の現場に行くことができ、クライアントとのやりとりを見学することができたことが、とても良い経験になったと感じている。分からないことは教えてくれて、挑戦させてくれたことに大変感謝している(受入先: 環境デザイン機構/九州大学1年生)

・体験したいくつかの作業はどれもやりがいのある楽しいものでした。社員さんにたくさんアドバイスをいただき、仕事をするときの苦労や社会人としてのマナーも教えていただくことができました。(受入先: ハダ工芸社/山口大学3年生)

・現場に足を運ぶこと、視野を広げること、予算内でいかによい物を作るかなど、これから気を付けたいといけないことを教えていただきました。よりディスプレイの仕事をしていきたいと思いました。(受入先: ツカサ創研/パンタンデザイン研究所1年生)

07 福岡のデザインを支える人々の「今」

福岡市デザイン啓発・広報事業 業務委託

福岡市経済振興局の依頼で、デザインの振興のためのアンケートを実施しました。

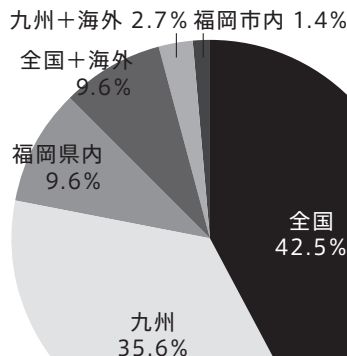
内容はデザイナーの経営、福利厚生、人材育成など多岐に渡り、福岡市におけるデザイン事務所の実態が明らかになりました。これまでのアンケートでは5人未満の事務所にはなかなか目が向いていませんでしたが、今回はFDLの会員事務所の協力を得て、小規模の事務所からも回答を得ることができました。

担当者感想

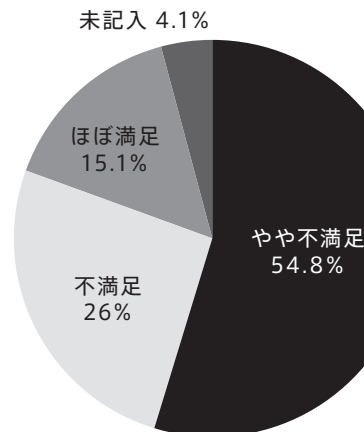
アンケートの結果で意外だったのが、デザイナーの皆さんが福岡デザインセンターの実現を熱望されていることでした。1996年、福岡にデザインセンターという「箱物」ではなく、さまざまなデザイン団体を横につなぐ組織を作ろうと設立されたのがFDLだったのですが、20年近く経ち、デザイナーの皆さんの意識にも変化が生じたようです。[廣瀬正人]

アンケート回答一部 抜粋

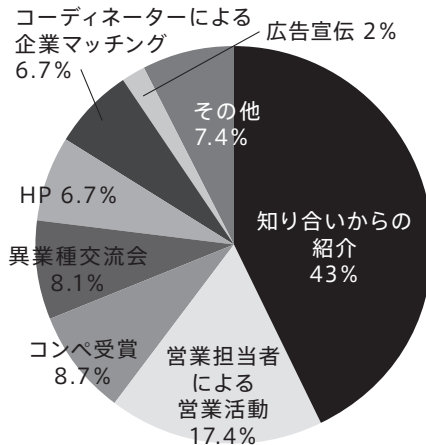
営業エリアは？



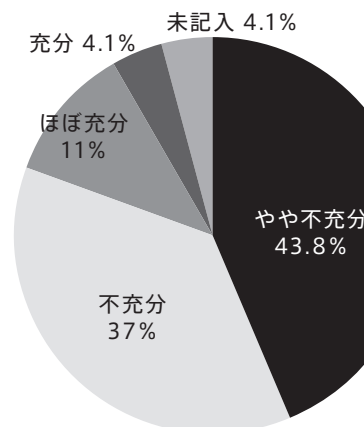
デザイン料に満足していますか？



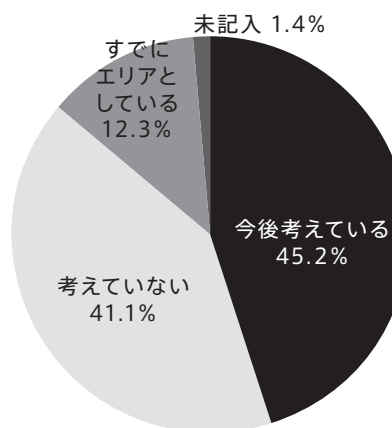
主な業務受注(顧客獲得)方法は？<複数回答>



福岡市内は貴社のデザイン業務のエリアとして十分なマーケットとお考えですか？



今後海外(アジア)を業務エリアとして考えていますか？



回答の概要

- アンケート対象に小規模事務所が含まれること
- 業務エリアとして福岡市だけでは不十分で九州、全国で仕事をしている事務所が多いこと
- アジアを業務エリアとして捉えたい、また既にアジアを業務エリアとしている事務所が多いこと
- 急な仕事の受注などで即戦力のスタッフが求められる時に対応できない
- 様々な機能を持たせたデザインセンターの必要性を感じているデザイナーが多いこと
- 行政内部局によりデザイン料金が異なるので改善してほしい

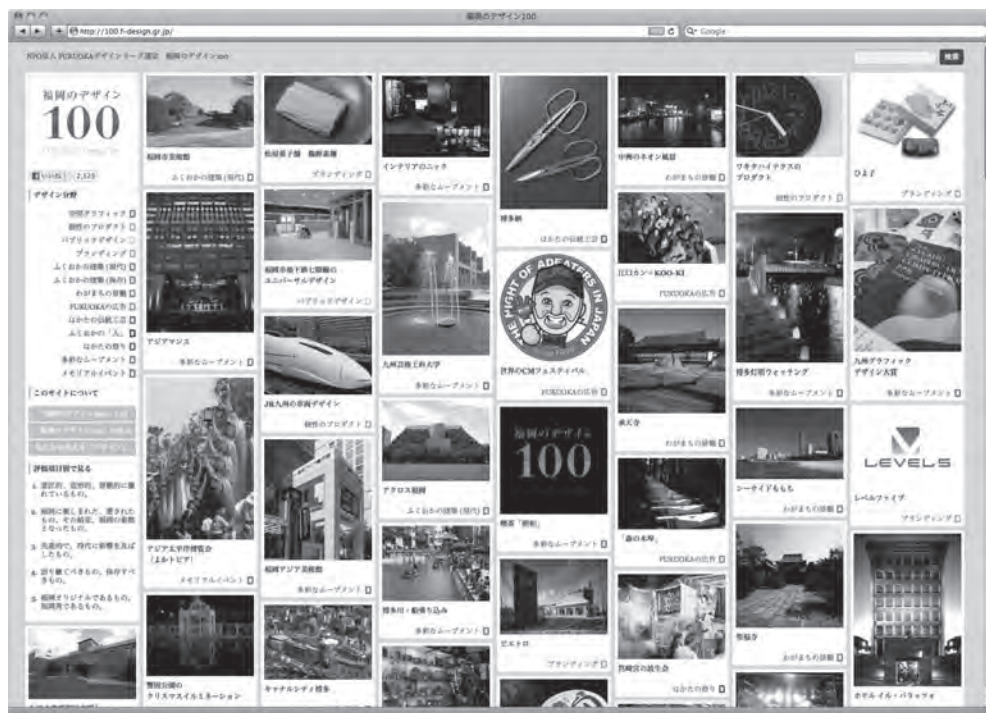
08 価値あるアーカイブ 「福岡のデザイン100」を、WEB公開

「福岡のデザイン100」アーカイブホームページ制作 業務委託

<http://100.f-design.gr.jp/>

FDLでは21世紀を迎えた2001年に、20世紀のデザインをアーカイブする目的で「福岡のデザイン100選考委員会」を立ち上げました。その後2008年に福岡県立美術館で実施した「FUKUOKA DESIGN MUSEUM」展の中で「福岡のデザイン100」の展示を行いました。

今年度、福岡市経済振興局の協力を得てこの「福岡のデザイン100」をFDLのHPで公開するに至りました。公開後はFDL内外から大きな反響があり、多数の好意的な意見をいただいています。



09 25年目の景観賞 これまでを振り返り、未来につなげるために

平成23年度福岡市都市景観賞運営その他 業務委託



福岡市都市景観賞は、今年度で25年目を迎えました。今年は過去24年間の景観賞を振り返り、さまざまなイベントを通して広く市民の声を聞くことで、今後の景観賞に活かすという試みを行いました。

イベントでは、天神や博多の街で過去の景観賞の写真パネルを展示し、好きな作品にシールで投票してもらいました。

「紺屋2023」ではミニシンポジウムも開催しました。12月には市役所講堂で「景観賞同窓会」を行い、沢山の方々の話を聞くことができました。また、福岡市都市景観室が毎年発行している機関誌「彩都」の企画制作も行い、これまでとは少し異なる、カジュアルな機関誌が出来上がりました。

10 「みんながやさしい、みんなにやさしい」を 体感できるイベントづくり

「ユニバーサル都市・福岡フェスティバル」の企画検討 業務委託

「ユニバーサル都市・福岡フェスティバル」は、「第4回国際ユニヴァーサルデザイン会議2012」と同時期に開催が予定されている市民向けイベントです。フェスティバルを通じて、「ユニバーサル都市・福岡」の理念や目標像を市民や企業へ広く理解・共感していただくために、さまざまなアイデアを出し合い企画検討を行いました。

11 福岡市ユニバーサル都市・福岡 シンボルマーク作成業務

ユニバーサル都市・福岡のシンボル
マーク作成をしました。

デザイン：藤田薫(株式会社アポロ計
画)／株式会社シーエータップ



12 みんなでつくろう、 僕たち、わたしたちの「こどもの城」

福津こどもの城デザインワークショップ

日時：7月26日(火)、8月9日(火)、8月23日(火)

講師：水野宏、中牟田麻弥、長尾朋貴

福津市に建設されるこどもの城(仮称)は、乳幼児から高校生までを対象とした公共施設で、現在建設が進められています。この実施設計段階で、外観、インテリア、サイン、家具などに利用者の声を反映させるため、小学生を対象としたデザインのワークショップを3回実施しました。デザインリーグのデザイナー、学生などがファシリテーターを務め、小学校高学年の子どもたちとともに具体的なデザインを提案し、設計に反映しました。

担当者感想

ワークショップに参加した子どもたちの熱心さが伝わり、施設に対する期待が感じられます。この施設は2013年春に竣工予定です。[佐藤俊郎]



13 透明性の高いコンペで 新しいロゴマークを選定

公益財団法人福岡市スポーツ協会シンボルマーク制作委託

「財団法人 福岡市体育協会」が「公益財団法人 福岡市スポーツ協会」に名称を変更するのに伴い、新しいシンボルマークの作成を行いました。スポーツを推進し活力ある社会づくりに寄与していく新団体にふさわしいデザインを、FDL会員に公募の上、審査を経て垣田健一郎氏の案が採用となりました。

担当者感想

ロゴマークのパブリックコンペ運営受託はデザインリーグの受託業務の定番になりました。コンペ審査の透明性を高めるため、徹底した公開審査と二段階審査への情報漏洩の防止に務めています。また最終的にクライアントの一方的な意見によるドンデン返しが無いよう、事前にクライアントと十分に議論して進める事ができました。[廣瀬正人]



14 土木工事の イメージアップ大作戦!

建設工事におけるイメージアップに関する調査 業務委託

福岡市道路下水道局からの依頼による受託事業で、極めてユニークな事業です。

現在福岡市では、市で発注する工事のうち主に土木下水道工事について、総工費の10%をイメージアップ事業に使うことを奨励しています。これは、市民に対して土木工事の意義を伝え、理解してもらうと同時に、地域への貢献などを通して工事のイメージアップをめざす事業です。この事業の実態を、現地調査を通して把握し、プログラムを見直して改善を行い、次年度からスムーズで効率のよい運営を行うための検討を実施しました。

担当者感想

この事業は、プロのデザイナーが参加して公共事業のイメージアップを目指すという、全国的にも先駆けとなるものです。社会的デザインをめざすFDLが関わる意義も、極めて大きいものがあります。[佐藤俊郎]





15 福岡デザイン界の1年を、飲んで笑って締めくくる

第14回FUKUOKAデザイン界合同大望年会2011

日時: 12月8日(木)

会場: ダイニングバー・ミツバチ

毎年恒例となっている、「FUKUOKAデザイン界合同大望年会」。今年も、デザイン都市を創る会主催、NPO法人FUKUOKAデザインリーグ共催のもと、福岡市博多区春吉のダイニングバー・ミツバチにて開催されました。今年は立食ではなく、座ってゆっくり話せるコミュニケーション

を重視した形式をとり、初めての参加者も充分楽しく交流できたと思います。参加人数は例年より少なく60名程度でしたが、なごんだ雰囲気がとても印象的でした。「お楽しみ抽選会」も、企業のみなさまのご協力により何とか実現できました。心から感謝申し上げます。

担当者感想

今回は簡単な段取りで開催できたにもかかわらず、ちゃんと盛り上がり、ほっとしました。2次会の方が盛り上がったかもしれませんね(笑) [児島正明]

釜山-福岡 16

意義深い交換インターンシップ

釜山・福岡交換デザインインターンシップ



8月1日から19日まで、韓国釜山デザインセンターから選抜された趙主恵(Ju Hye Cho)さんと金成岷(Kim Sung Min)さんが来福し、インターンシッププログラムを受講しました。これは福岡市で進めている交流プログラムの一環であり、FDLのメンバーである(株)ジーエータップと(株)環境デザイン機構が受け入れ先となり実現したものです。また、同じタイミングで福岡からも2名の学生が釜山へ派遣され、釜山デザインセンターを窓口として研修を受けました。

釜山からのインターン生たちは「震災復興に何が可能か? デザインの役割」というテーマで研修成果をまとめ、FDLのメンバーに対してプレゼンテーションを行いました。

担当者感想

若いデザイナーの国際的な交流研修としては極めて意義は大きいのですが、今後の事業の継続性や、テーマの設定等、課題も見えてきました。[佐藤俊郎]

福岡と釜山の 17

より積極的なデザイン交流を目指して

釜山日韓交流／DCB調印式

日時: 来福期間11月23日(水)～25日(金)、調印式11月24日(木)

会場: 九州大学大橋サテライト



11月23日～25日、韓国釜山市の釜山経済振興院関係者、釜山デザインセンター(DCB)関係者、および民間デザイン事務所で構成される(社)韓国デザイン企業協会のメンバー総勢28名が来福し、DCBとFDLの間でMOU(相互覚書)の調印とワークショップを行いました。これは、今後デザインリーグとDCBが交流の段階から、実務的なプロジェクトでの協働をめざすもので、同時に民間デザイン企業間での積極的な交流を促進していくための企画です。

担当者感想

今後、釜山との事業を展開するとともに、上海や台北などとも交流を深め、アジアのデザインリーグをめざすことも夢ではないように思えます。[佐藤俊郎]



18 上海、台湾へ。 さらに広がるアジアとの交流

上海戲劇学院との相互覚書交換事業

日時: 12月2日～4日

会場: 上海戲劇学院

12月2日から4日まで上海戲劇学院で行われた「創造的産業に関する国際教育会議(国連UNCTAD後援)」に、釜山デザインセンター(DCB)からの紹介でFDLメンバー 佐藤俊郎氏が参加しました。また、この会議に合わせて、FDLと上海戲劇学院との間でMOU(相互覚書)の調印を行いました。

帰路では台湾の国立師範大学で行われた国際創意産業会議に参加し、FDLの紹介を行いました。

担当者感想

上海の会議では、クリエイティブな活動への関心は極めて高かったのですが、デザイン＝産業活動と直結したイメージが強く、FDLの活動の根幹である「社会のためのデザイン」を理解してもらえたかどうか、微妙なところでした。

ただ、上海の都市としての活気には相変わらず圧倒されるものがあります。今後さらに釜山、上海、台北と福岡をつなぐデザインネットワークができれば、さらにもっとの展開が期待できます。[佐藤俊郎]



19 トヨタ自動車工場で、 最新鋭のクルマづくりを知る

トヨタ自動車九州株式会社 宮田工場 ウイング21PR館見学

日時: 3月22日(木)



FDL理事長 渡辺順好氏(トヨタ自動車九州株式会社相談役)のご好意で、トヨタ自動車九州の宮田工場、中でもレクサスの生産ラインを見学することができました。

レクサス販売店と同じ黒と白で統一された工場内では、部品を運ぶ無人の荷台が場内を動き回るなど先端技術を目の当たりにし、とても楽しい社会見学となりました。

NPO FUKUOKA DESIGN LERGUE

MEMBERSHIP LIST 会員名簿

団体正会員

(社)日本建築家協会九州支部福岡会(JIA)
 (社)日本グラフィックデザイナー協会福岡地区(JAGDA)
 (公社)日本サインデザイン協会九州地区(SDA)
 (社)日本商環境設計家協会九州支部(JCD)
 (一社)日本空間デザイン協会九州支部(DSA)
 (一社)日本デザインコンサルタント協会(JDCA)
 九州アートディレクターズクラブ(K-ADC)
 (社)日本インテリアデザイナー協会九州事業部(JID)
 福岡県産業デザイン協議会
 麻生建築&デザイン専門学校
 九州デザイナー学院
 日本デザイナー学院
 福岡デザイン専門学校
 バンタンデザイン研究所
 株式会社ゼネラルアサヒ
 株式会社ジーエークレアス
 株式会社環境デザイン機構

個人正会員(50音順)

愛智 大輔 築地原 芳紀
 我妻 幸長 照井善明
 阿武寿志 長尾 朋貴
 岩田憲明 長峰栄子
 内田正宏 野口恵庸
 頼原澄子 橋爪大輔
 鬼塚 淳子 廣瀬正人
 川崎泰秀 吹上 剛一
 岸本泰洋 松尾一声
 北村 里美 松尾 紘出子
 木下 浩市 松山 真介
 兒島正明 馬渡秀公
 嶋本和夫 水口敬司
 正田美加 棕本 敏行
 武田 芳郎 吉田 寛史
 田中 秀和

団体賛助会員

株式会社正興電機製作所
 博多装工株式会社
 福岡県民共済生活協同組合
 本多機工株式会社
 九州電力株式会社
 株式会社ステッカートレーダージャパン
 社会福祉法人未来駅 愛
 福岡インテリアコーディネーター協会
 (社)日本インダストリアルデザイナー協会(JIDA)

個人賛助会員

田中 亮二

学生賛助会員

松尾 朱織
 松尾 梨代
 藤森 巧也
 嶋立 真吾
 矢野 修平

役員名簿

理事長 渡辺 顯好	副理事長 佐藤 俊郎	専務理事 廣瀬 正人
副理事長 定村 俊満	理事 金子 真三	理事 板野 仁志
理事 棕本 敏行	理事 長峰 栄子	理事 熊野 学
理事 森重 正治	理事 水野 宏	理事 吉永 文治
理事 金子 洋伸	理事 兒島 正明	監事 川崎 泰秀
理事 松野 國一	理事 中牟田 麻弥	監事 嶋本 和夫
理事 大庭 香代子		

2011年3月現在

2011年度のNPO FUKUOKAデザインリーグは、海外との交流元年とも呼べる年でした。特に韓国釜山市の釜山デザインセンター (DCB) とは、11月に韓国デザイン企業協会メンバーを中心として28名のデレゲーションを迎えMOU (相互覚書) を締結し、お互いに交流を深めデザインビジネスを展開することで合意しました。また12月には、DCBの紹介で中国上海の上海戯劇学院との間でもMOUを締結しました。

これに先立ち、8月には釜山・福岡交換デザインインターンシップを行い、両都市から2名ずつがお互いの都市に滞在しながら研修を受け、大きな成果をあげました。

受託事業の中で、今後の展開が期待されるのは福岡市の土木事業におけるイメージアップ事業で、全国でも極めてユニークな事業です。どちらかと言えば迷惑と思われる土木事業にデザインを導入し、よりよい広報や環境整備を通してイメージアップを図るものです。次年度からは、具体的なデザイン展開が行われます。

従来 of 自主事業に加えて受託事業が多様化し、さらに海外という視点が加わったことで、FDLの活動に幅が生まれ、さらなる展開が期待される充実した1年だったと思います。

NPO FUKUOKAデザインリーグ副理事長

佐藤俊郎



2012年10月発行
NPO FUKUOKA デザインリーグ
福岡市南区大橋1-3-27
九州大学大橋サテライト内
事務局 岡真由子
TEL 092-551-0825
FAX 092-405-0825
E-mail fdljinu@f-design.gr.jp
URL <http://www.f-design.gr.jp>

デザイン B5 design
編集 NPO FUKUOKA デザインリーグ

